

## 会議結果報告書

### 1 会議の名称

令和7年度第1回光市青少年問題協議会

### 2 開催日時

令和8年2月6日（金）19時～20時35分

### 3 開催場所

教育委員会 1階ホール

### 4 出席者

光市青少年問題教委議会委員20名中16名

事務局9名

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 会議の議事録

#### (1) 会長あいさつ

本協議会は、子どもたちの現状、青少年が抱えている課題等を理解していただき、各地域、職域、団体での活動について皆様と情報共有し、意見交換をする機会となっている。

本日は、委員の皆様からのアンケートをもとに、SNSをテーマとして取り上げることとなった。SNSは、若者たちにとって、欠かすことのできない便利なツールである。日常的に使用されているが、功罪はあり、現状把握が追い付かない状況。今朝の新聞にも掲載されていたが、私たちが子どもころにSF小説やアニメで描かれていたことが現実になろうとしており、驚いている。これから先のデジタル社会の未来というのがどのようなになっているのか、想像が追い付かない。

こうした中でも諦めずに、問題となっている事例、憂慮すべき事態、さらにそれらの予防策や解決方策について、理解を深め有意義な協議の場にしたい。

それぞれのお立場の皆様から、忌憚のないご意見と、また意見交換をさせていただきたい。

#### (2) 所管説明

ア 光警察署

- ・管内の犯罪発生、少年非行、子どもへの声かけ事案の発生状況等

- ・薬物関連の違反事案の増加
- ・SNSに関連した事案も増加傾向

イ 光市教育委員会学校教育課

- ・市内児童生徒の問題行動、不登校等
- ・SNSに関わる事案の増加
- ・「まなびば」、「あそびば」の活用

ウ 光市青少年センター

- ・未然防止と教育相談を重点として活動
- ・青少年健全育成市民会議を中心に、様々な事業、業務を展開

(3) 協議内容説明（事務局）

「SNSの現状と課題」

総務省の令和6年通信利用動向調査から、年齢階層別のモバイル端末保有状況、インターネット利用目的、用途やインターネット利用時における不安について説明

(4) 協議

（議長）

SNSの利用が日常となっている中で、子どもたちが安心してSNSと向き合うために、私たち大人がどのように関わり、支援し、導いていくことができるかを考えていきたい。本日は、様々な立場から、また一人の大人としてご意見やご提言をいただきたい。まずは、最初に中学校で、情報教育等で何か取りくまれていることがあれば、教えてほしい。

（委員）

中学校では、スマートフォンを持っている生徒が8割くらいいる。SNSは、便利な面もあるが、トラブルもある。多くの生徒がゲームをやっており、そのゲームがオンラインゲームで、見ず知らずの人と繋がっている。現在、学校の中でそのような被害はないが、実際犯罪に使われそうなゲームを日常的にやっている。学校では情報モラル教育を行っているが、保護者にも実際の使い方やルールを確認してほしい。

（委員）

SNSの利用の低年齢化が気になる。中身をチェックするのが難しい。親は見守ることが大切と思う。

（委員）

PTAの研修でもSNSをテーマに話をした。親として、スマホを渡す時のルールを渡す前からしっかり行うことが大切。

(委員)

SNSは、利用しなかったらコミュニケーションを取りにくい。規制をかけても逃げ道があるので、この問題は難しい。

(委員)

子どもが辛い時に、親としてできるのは、寄り添うということ。SNSについては、大人が学ぶ必要があると思う。

(委員)

ゲームでSNSの使用時間が増えている。家庭でのルールも必要だが、海外のように規制をした方がよいのでは。

(委員)

携帯の低年齢化により犯罪に巻き込まれている。家庭内のルールづくりが大切。また警察としても情報発信をし、悩みがあれば相談を受ける。

(委員)

こども家庭庁のインターネット利用環境実態調査から、フィルタリングのルールを知っている人は9割で、実際のフィルタリングを利用している人は5割という結果が出ていた。肯定してくれるから、チャットを利用する。

現状を認識することが重要。

(委員)

SNSの利用が低年齢化している。大人が追い付かない。主体的に判断する力が必要。思いやりや、日常モラルが大切。保護者と一緒に意識を高める必要がある。

(委員)

自分も高齢者ではあるが、インスタやフェイスブックを利用して、自分たちの活動の情報発信をしている。その中で、危ないメッセージが届くこともある。知らない人とのメッセージのやり取りは断っている。

子どもたちは、SNSの使い方を十分理解していないと思う。

(委員)

小学校のほとんどが、高学年を中心にケータイ・スマホ教室を行っている。

小学生は自分では管理しきれない。保護者が一緒に確認し、約束ごとを決め、一緒に見守ることが必要。また、小中学校で一緒にスマホのルール作りが必要。

(委員)

いじめのうち、SNSが関係するものも多い。他にもポルノ、ネット依存など様々な問題がある。情報モラル教育、家庭でのルール、相談することが大切と感じている。

(委員)

親子で話し合うことが大切。また、SNS について勉強をすることも大切。相談できる人を見つけることも必要。大人がゆとりを持って接することで、子どもも相談しやすくなる。

(委員)

子どもたちは、一人一台タブレットを持っているが、使い方を上手にしなければ危ない。家庭に持ち帰ってからのタブレットの利用状況が分かれば知りたい。

また、部活動の地域移行になって、ふらふらしている子どもを見かけるようになったと感じる。

(事務局)

タブレットについては、学習用のため、いわゆる SNS は使用することができないようになっている。閲覧制限や時間制限など、いろいろな制限をつけたものを貸与している状況のため、心配されている部分については、クリアできている。

部活動については、いろいろな方法で、課題について研究をしている。その中で、中学生や高校生の居場所づくりについて、何が望ましいか、どんな居場所を作っていこうかという取組を前向きに考えている。

## 7 意見交換

### (1) 補導委員の名称変更について (事務局)

補導委員への名称についてアンケート調査を行った結果を報告。補導委員幹事会で、新しい名称は「ガーディアン」を事務局案として提示した。補導委員幹事会では、令和7年度に周知をし、令和8年度から名称変更で意見一致した。青少年問題協議会の委員にご意見を伺いたい。

(委員)

ご高齢の方には「ガーディアン」は難しい。自分が所属する団体からも補導委員を推薦しているが、「ガーディアン」では、一体何をするのかも分かりにくいいため、活動をお願いしにくくなる。

(委員)

名称を変更するのはいいのだが、「ガーディアン」は分かりにくいのではないだろうか。変更するのであれば、見守り隊など、もう少し柔らかい感じの方がよいのでは。

(委員)

部活動を地域移行する中で、時間を持て余す子どもが増えてくる。そんな中、「ガーディアン」という馴染みにない言葉をつかったものは、分かりにくい。変える必要性がない。「ガーディアン(旧補導委員)」で当面活動すると言われたが、いずれ、(旧補導委員)が取れた時に、何なのか分らない。

## 8 今後に向けて

(事務局)

会議の内容をまとめて活動の参考にしていく。委員の方におかれましても、それぞれの団体や機関において、支援できるチャンスがありましたら、光市の子どもたちへのご指導・ご協力をお願いします。

## 9 会長あいさつ

それぞれの立場から、様々な貴重な意見をいただくことができた。

今や時代は、一人一台、スマートフォンを持つような時代にまで、大きく急激に変わっていることを実感している。

ルールを決めても、子どもが家に帰った時、保護者が家にいなければ、一人の時間、自由に使える時間があり、我々以上に子ども達の方が、その操作に詳しく、恐れを知らずに使いまわしていることに危機感を持っている。ただ、私たち大人もスマートフォンを手放せるかといったら、手放せないのが現実である。

メリットが多い分、デメリットも多くなるが、そのような現状の中でも、仕方がないと諦めることなく、こうした意見交換をしながら、根気強くやり続けていくことに尽きるのではないかと思う。

一人でも多くの子どもが道に迷わないように、また被害者にならないようにこうした話題を色々な場で話していきたい。今後ともよろしくをお願いします。

## 10 閉会のことば